友達であり家族でもある
私のルームーメート

教育文化学部　3年生

G7：ユンユミ。

ボウンさんとの出会い

私がボウンさんと初めて出会ったのは大学に入ってからです。韓国でハンバット大学の１年生の時、同じ学科（日本語学科）でした。

初対面の時は互いに向かい合って座ることになったが、ぎごちなく笑いながらあいさつを交わすだけでした。その後も仲良しの友達がバラバラになって、あまり話し合う機会がなかったです

でも、ほとんど同じ授業を受けていたし図書館とか講義室でよく会えたので学科の友達として仲良く過ごしていました。その時は確かにボウンさんともっと親しくなりたかったと思います。

私はどうしてこの人をインタビューしたいのか

日本に留学が決まったとき、ボウンさんと一緒に住むことになったということが分かりました。正直に言うと、はじめてそういうことを聞いた時はちょっと不安というか、心配でした。いくら仲良しの友達だとしても誰かと一緒に住むことになったら必ず仲が悪くなるとの話を聞いたことがあったからです。もしかして、相性が悪かったりすると言い争いすることもあってとても大変だと誰かに聞いた覚えがありました。そのような心配をいだいて、ボウンさんとの留学生活が始まったのです。なので、私はずっとボウンさんについてもっと知りたいと思っていました。ちょうどその時、このインタビュに気が付いたのです。これから私がボウンさんのことをインタビューしたらもっと親しくなれるし、一緒に住んでいる間私が歩調を合わせるところがあったら早くキャッチしたほうがいいと思いました。これは確かに一石二鳥だと感じてボウンさんをインタビュー相手として決めました。

テーマメモ１

ボウンさんは今私と一緒に日本に留学していて、同じ家で住んでいます。彼女は２１才（韓国の歳では２２才）で、専攻は日本語です。外形的に見ると、背がちょっと高くてやせていて、赤いメガネをかけています。また、彼女はピンクが大好きで持っているものはほとんどピンクです。

彼女は私と同じようにそそっかしい性格で忘れものが多いです。それで私とボウンさんは二人ともうっかりして物をどこかに置いてくることがよくあります。

先日はこのようなエピソードもありました。ボウンさんが米を研いでおひつに入れておいたのに１時間がたってもご飯ができなくて見回したら電源のコードがつながっていなかったのです。その時はおなかがすいて大変でしたが今思い出したら、面白いです。

そして昨日はボウンさんの誕生日だったのでささやかなパーティーをしました。留学生のともだちとボウンさんと一緒にカレーとケーキを作って食べました。とても楽しい時間でした。

ボウンさんはおもしろくてかわいい人だと思います。これから、このインタビューをしながら私が知らなかった彼女の魅力についてもっと知りたいと思います。

テーマメモ２

今度のテーマメモ２はボウンさん（インタビュー相手）が私にとってどんな人かを中心に
書きたいと思います。
韓国にいた時はボウンさんとあまり親しくなかったのでどんな性格の人か、何が好きなのか全然知らなかったです。でも日本に留学して、一緒に住むことになってから、ボウンさんについてだんだん分かってきているところです。
一言で言うと、彼女は私と正反対のタイプだと思います。もちろんそそっかしくて失敗が多いところとか、食べることが好きだというところなどは似ていますが、その他に何かを行うことにとってボウンさんはのんきな人で、私はちょっと気が短かいほうです。
それで、私があまり急ぎすぎて事を失敗した時に、ボウンさんが忠告してくれたり、手伝ってくれることがあります。逆に、急な状況でボウンさんがのんびりしていたら、私が急いで事を処理することもあって、お互いに不足なところを助け合いながら暮らしています。おかげで正反対のタイプの人と一緒に暮らしていくのは悪いと考えられるより、面白いなと思っています。いつのまにか生活の半分を頼っていて、ボウンさんは今私にとって欠かせない大切な友だちです。また、私はわがままで人を困らせるタイプの人が嫌いですが、ボウンさんは人をよく配慮する長所を持っています。
そして私が最近気づいたのはボウンさんは自分が好きなことに精神を集中させる能力が優れるようです。自分が好きな小説を読んだり、好きなゲームをしたりする時は夢中になっている姿をよく見ます。その時はわたしが話し掛けても聞こえていないときもあって、驚きました。
最近、彼女は韓国にいる家族のことを心配しているように見えます。毎日一緒に暮らしていたおばあさん

と弟のことが気にかかると言います。その理由はたぶん「ボウンさんが日本に留学してからずっと心配になって眠れない」とのおばあさんからの電話があったからだと思います。更にボウンさんの弟は今大学１年生なのに、毎日アルバイトばかりしていてそれも心配だそうです。学生のとき、アルバイトするのはもちろんいいですが、日夜アルバイトばかりしていると、勉強とか他のことに支障が出ると思うからです。それでアルバイトを辞めても、弟はボウンさんに「今のバイトに満足していて、大丈夫だ」と返事したので、気になっているように見えました。でもこれからは肯定的に考えるはずだと言って私もよかったと思っています。

何か悩みがある時や何だか憂鬱な心になる時、誰かがそばにいてくれるのはそれだけで心強くなると思います。一人暮らしではなく、ボウンさんと二人で住んでいるうちにそういう思いがよくします。。

このインタビューをしながら、人の顔形が互いに違うように私と性格と素質と考え方がおのおの異なっている誰かをわかってくることは面白いなと思っています。

偶然出会って、一緒に留学して今は一緒に暮らすことになった相手の魅力を分かっていく過程として、インタビューはすればするほど楽しいです。

それで、これからも私には持ってないところを持っている私とは違う相手のことをインタビューするのに頑張りたいと思います。

インタビュー結果

これからボウンさんとインタビューした結果ラフです。インタビューする前にいくつかの質問を考えて聞いてみました。

まず最近の留学生活はどうかという質問に「このごろは生活に慣れてて楽しい時間を過ごしている。日本の食べ物はおいしいし、日本人もとても親切で気に入っている。欠点があるとしたら、どんどんすごく寒くなってそれがちょっと困っている」と答えてくれました。

また、これからの望みとか計画に関する質問には「日本人の友達がほしい。気楽にしゃべられる本当の友達と付き合いたい。他には日本語がもっとぺらぺらになったら秋田以外の場所へ行ってみたい。旅行が好きだから」という答えでした。

そして、日本にきて関心を持っていることは何かという質問に「時々秋田の人と会って話すとき方言が全然分からなくて困ったことがある。で、最近方言について関心を持っているし、面白い表現とかあれば勉強したい。またこのごろは生活費が足りなくてアルバイトも探している」と。これはもちろん私にも該当する答えだと思います。

またボウンさんは自分のことについてどんな人だと思っているかと聞いたら、「今よりもっと物事に積極的に行動する必要があると思う。消極的な性格を変えたい。そそっかしいくせも直したい。これから自分のことに満足できるところまで頑張りたいと思う」と答えてくれました。

最後に、私のインタビュー相手として感想とかあれば聞かせてくださいとの要請に「私が誰かのインタビュー相手になったこと自体がうれしい。このインタビューをしながらユミちゃんともっと仲良くなったし、お互いにいろいろのことについて知るようになったと思う。私をインタビュー相手として選んでくれてあ

りがとう。役にたたかどうか分らないけど、これからもよろしく」と答えてくれました。
インタビュー結果を作成しながら、私がインタビューをし始めた時より、ずいぶんボウンさんのことについて色々分かるようになったと思います。不思議だとも感じましたが、確かにこのインタビュー活動で私とは違う他人の文化を理解することが出来ました。

インタビュー相手のプロフィール

彼女についてもっと詳しくインタビューしたいと思って、彼女は何が好きで、何が嫌いなのか、今何を目指しているのか、ということなどを聞いて、その結果をプロフィールとしてまとめました。

★like

好きな歌手：スガシカオ

キャラックター；リラックマ

食べ物；ラーメン、ピザ、チキン

好きな色；ピンク

好きな季節・天気；初夏・涼しい天気

好きな科目；そんなことあるわけない

好きな理想型：メガネをかけて、背が高くて、スーツが似合う人

好きな物：大事にする香水

好きな場所：カラオケ

好きなプログラム：ミュージックステーション

好きな歌：嵐の One Love

好きな動物；ネコ

しゃれた文句； One man with courage makes a majority.

★Dislike

嫌いなタイプ：責任感がない人、 自分の話しか言わない人。

こと；皿洗い

食べ物：海産物

行動：偉そうに振舞うこと

場所；地下鉄

映画：恐怖映画、残酷な映画

プログラム；お笑い番組

歌手：特にない

動物：犬

★Now

現在秋田大学で留学中、日本語の勉強。

目指すこと；日本の会社に働きたい

最近ほしいもの；帽子、手袋、まふら（冬用品なら、全部ほしい）

最近泣いたこと；クラナドを見て、筋が悲しくて泣いた

最近笑ったこと：友だちが私のマネをして、その格好が悪くて笑ってしまった

最近誇りに思ったこと；日本のドラマとか、映画を字幕なしに見れたこと。

失望したこと：テストの結果を見て、ガッカリした

最近行きつけの店は；時遊館（カラオケ）

行きたいところ；東京、大阪

今の自分自身に点数をつけるとしたら；10 点満点にして、8.5 点くらい

今やりたいこと；ショッピング（でも、お金がないから無理）

酒量・酒癖；焼酎一本くらい。酒に酔ったら，笑いすぎる

寝癖：周りを転がっている

★Remember

一番記憶に残った旅行；一人でソウルに行って、あちこちを見て回った旅

一番記憶に残った夢；韓国に戻った夢でした。

感動を受けた本；乙一致の君にしか聞こえない

一生の最大の嘘；私は勉強が上手だ

辛い時に一番励ましになった言葉；君なら大丈夫だよ。出来る！

今後悔すること；高校 3 年のとき、一生懸命勉強しなかったこと

お勧めの観光地；韓国の済州島（ゼジュド）

自分なりの思い出を保管する方法：写真、日記

日本語の勉強を始めたきっかけ；スガシカオの歌を聞いて歌詞がとてもよくて、日本語に興味を持った。

最終レポートに向かって

まだインタビューのことが完璧ではない気がしますので、最終レポートの作成の前にもっとはっきりまとめしておく必要があると思います。なので、「私はどうしてボウンさんのことをインタビューしたくなったのか」その動機とこのインタビューをして、相手について分かったこととか、もっと知りたくなったこと、相手は私にとってどのような存在なのかということを考えて、これからの最終レポートに向かって頑張ります！

彼女と私の違い

ボウンさんと私は好きな音楽のジャンルとか好きな男のタイプ、好きな食べ物など違うところがいっぱいあります。物事に関しても私はさっさと済ますほうが好きで、ボウンさんはあとでゆっくりするほうです。またボウンさんは頑固な性格で我が強いほうです。一緒に料理をしたり掃除したりするとき、意見が違ったら相性が合わなくて困ったこともありました。でもその過程を繰り返して今は、互いに違うところに気

付いて、意見が違ったら互いに無視されないように各々考え方の違いを尊重することになりました。
つまり、ボウンさんと私の違いを認めて、互いに配慮するのが一番大事なことではないかと思います

今、私にとってボウンさんの存在

ボウンさんと同じ家で住むことになってからもう３か月になりました。
日本に来たばかりで、何が何だか分からなかった時私たちは二人暮らしだから本当によかったと安心しました。その時は互いに励まし合ったり、頼り合ったりしながら力になってくれました。
一緒に暮らしながら絶対忘られない面白い思い出話もたくさんあって誰が先というまでもなく、たまにその時の話を持ち出して懐かしいなと思いながら微笑んだこともあります。
それだけ今ボウンさんと私の間には家族のような情が出来でいる気がします。このまま行くとしたら、多分韓国に帰る時期になると、切っても切れない仲になるだろうと思います。
何か辛いことがあったり、悩みがある時、ボウンさんはいつも嫌気もなく積極的に私からの相談に付き合ってくれます。私の最高のルームメートボウンさんは私にとって友達であり、家族でもある大切な存在です。

このクラスについて

初めて今のメンバと同じグループになったとき、ぎごちなく笑いながら自己紹介したことを覚えています。
その時は、グループに女の子は私だけでなんとなく恥ずかしい気がしてあまり喋ることもなく、これからどうしたらもっと仲良くなれるかなと心配しました。
でも、みんな優しくて何か分からないことがあったら手伝ってくれたし、ボムソクと私にいろいろよくしてくれました。性格も明るくてみんな本当にいい人だと思います。同じグループになってよかったです。
この授業を受けながらレポートを書くのはちょっと大変でしたが、他に授業方式とかクラスの活動はとてもいいと思います。そしてまたこのような国際交流の授業があったら、ぜひ受けてみたいと思います。

日本事情Ⅱ

「こんな親になりたい」という大人のモデル

秋田大学　教育文化学部
学校教育課程
教科教育実践選修　２年
氏名：伊藤晃平

グループ７

目次

１．はじめに
２．インタビュー相手について
　２－１．インタビュー相手の紹介
　２－２．インタビュー相手に決めた動機
３．ねらい
４．方法
５．なぜ魅力的か？
　５－１．母と自分、親と子
　５―２．理想的な親のモデル
　５―３．インタビューを終えて
６．最後に
７．「日本事情Ⅱ」を振り返って

１．はじめに

日本事情Ⅱという科目は多様な背景を持つ人、そして自分自身とじっくりコミュニケーションすることで、
① 自分にとっての「文化」とは何かを見つける。
② 「多文化コミュニケーション」の方法を体得する。
③ コミュニケーションすることの意義を知る。
をねらいとしている。
授業ではグループを作り、グループ内で「自分にとって魅力的な人」を紹介することを出発点とし、仮説をたててインタビューしたりグループ内での意見交換を通して、ねらいの達成を目指す。

２．インタビュー相手について

２－１．インタビュー相手の紹介

自分はインタビュー相手に自分の「母」を選びました。

２－２．インタビュー相手に決めた動機

自分の母は自分が困っているときに、いつも相談にのってくれます。大学進学のとき、どこの大学に行くか迷っているときに、いろいろとアドバイスをくれました。また、最近では大学卒業後の進路について母と話し合うことが多くなってきました。
自分は今、大学に自宅から通っているので親と一緒に住んでいます。大学卒業後はどうなるか分かりませんが、一人暮らしをすることになるかもしれません。一人暮らしをするということは、親と別々に暮らすことになるということですが、
「今の生活の中で、自分にとって親の存在とはなんなんのか？」
ということについて今一度深く考えてみようと思いました。

３．ねらい

親子関係について考え、自分にとってどうして母が魅力的な人物なのか
を明らかにする。

４．方法

① ５人程度のグループをつくる。
② 誰にインタビューしたいか、その人は自分にとってどんな人か、についてアイディアメモを書く。
③ アイディアメモについてグループ内で意見交換をする。
④ インタビュー相手の紹介、インタビュー相手に関する印象的なエピソード、インタビュー相手が自分にとってなぜ魅力的なのか、等についてテーマメモ１を作成する。
⑤ テーマメモ１についてグループ内で意見交換をする。
⑥ ④でもらった意見を参考にテーマメモ１の内容をより深めていく。テーマメモ２を作成する。
⑦ テーマメモ２についてグループ内で意見交換をする。
⑧ インタビューをして、インタビュー結果を書く。
⑨ インタビュー結果についてグループ内で意見交換をする。
⑩ 下書きを書く。（←現在はここまで）
⑪ 最終レポートを書く。

５．なぜ魅力的か？

５－１．母と自分、親と子

自分がインタビューする予定の、母について紹介します。
自分にとって母は、母というよりも「友だち」のような存在です。「母」を「友だち」、あるいは１人の「人間」としてとらえるという感覚は、青年期(11 歳～22 歳)における自律のなかで生じることです。そのことから青年期を「親子関係を再編する時期」と言いますが、問題は「親」を「1 人の人間」としてとらえられるようになった後だといいます。自分は現在 19 歳で青年期に含まれるのですが、今一度親子関係について考えるべきなのではないかと思いました。

自宅から大学に通っている自分は、食事の準備や洗濯など、親に頼りっきりになってしまっていることがたくさんあります。大学生になると一人暮らしをする人が多いと思います。そんな中で自分は自宅から通っているわけで、将来的に一人暮らしをすることになったときが心配でなりません。「自宅から通うのは経済的に良い」ということを理由から、一人暮らしではなく自宅から通うことを選んだのですが、最近では「自炊するのが面倒」という理由に変わってきているような気がします。今更、一人暮らしをするつもりはありませんが、自宅にいても自分でできることは、なるべく自分でやろうと思いました。

「日本事情Ⅱ」の授業をとっていなかったら、このようなことを考えたり親とじっくり話

すような場面を作ることはできないと思いました。この機会を有効利用して、親子関係について考えていきたいと思いました。

５－２．理想的な親のモデル

私は、教育文化学部の学校教育課程という将来教員を目指す人たちが入る課程に所属しています。（私は教員を目指してはいません。）カリキュラム的に、子どもの発達や育て方等についての講義を受ける機会が多く、様々な方法を勉強してきました。しかしここで、自分は親や社会の中でどのように育てられてきて、今の自分はどのような状態にあるのか、という疑問が浮かんで来ました。そこで、今回のインタビューでは母が「自分をどのように育ててきたのか」という点について聞いていきたいと思いました。また、それを踏まえて、今度は自分が親になったときに「子どもをどのように育てていけばよいのか」ということについても考えていきたいと思いました。

精神は「身体的な拘束」によって形成されるといいます。つまり、身体的な拘束を受けることで、心の構えができ、豊かな精神を持つことができるということです。心の構えができると、対人関係において場の雰囲気に従って振る舞え、他人とのコミュニケーションを通して、豊かな感情・精神を身につけることができる、ということです。小さい頃に、なんの制限も与えず自由に行動させてしまうと、例えば小１プロブレムというような多動症の傾向を持った子どもに成長してしまうといいます。では、自分は親にどのように育てられてきたのでしょうか。自分を客観評価するのはなかなか難しいことであり、自分はこう思っていても他からは別に思われている、ということはよくあることです。ここでは、あえて自分の中に答えを用意せず、インタビューをしていく中で答えを見つけていきたいと考えています。

子どもの育て方として三歳児神話について学習する機会があったため、その点についても今回のインタビューで内容の理解を深めていきたいと思います。三歳児神話とは、子どもが三歳までは家庭の母親のもとで育てないと、後々取り返しのつかないダメージを子どもに与えるというものです。私は、父と母が共稼ぎだったため、母が一日中付きっきりで自分を育てていたわけではありません。しかし、私自身実感してないだけかもわかりませんが、取り返しのつかないダメージは負っていないと考えていま。私は、乳児期・早期児童期のほとんどを母の母、つまり私の叔母から育てられました。子どもの養育について言えることは、必ずしも母親が子どもを育てなければいけないわけではなく、子どもが愛着を形成する機会を得られているかということが大切であり、父親でも叔母でも叔父でも誰でも母親と同じほどに良い養育者になれるということです。こうなると私と叔母の間柄は良くなっても、私と母あるいは父の間に何か影響はないのか、という問題が浮上してきます。このような点から、母が私を育てていくうえで何かしらの工夫や心がけをしていたものと考えました。このことについて、インタビューの中で聞いていき、自分が親になった

ときの参考にしていきたいと思います。

今度は、これからの私についてです。私は大学に入ってから、自宅から通うか一人暮らしをするかで悩んだ結果、自宅から通うことを選びました。その結果私は１人で食事の準備をしたりすることがほとんどできないと思います。私はこのまま大学を卒業するまで自宅から通い続けるつもりなので、一人暮らしを経験しないまま就職をしていくのだと思います。就職も自宅からそんなに遠くなければ自宅から通うつもりでいます。これは、経済的に有利であることを理由にした親への甘えなのではないかと思います。自分のこれからについても今回のインタビューを通して考えていきたいと思います。

５－３．インタビューを終えて

母は自分が生まれると仕事を辞め、育児に専念したようでした。しかし、３ヶ月後、元いた職場から「もう一度来てくれないか？」と誘われ、職場に復帰したようです。その後、自分は母の母(つまり、おばあちゃん)に育てられたらしいです。おばあちゃんとは同居していたわけではありませんが、同じ市内にいたので、朝に母がおばあちゃんの家に自分を預けて職場に行き、帰りにおばあちゃんの家によって、連れて帰る、というのが１日の流れでした。今思えば、自分はほぼおばあちゃんに育てられた、と言ってしまって良いような気がします。中学校にあがるまでは、帰宅先はおばあちゃんの家でした。けっきょく、自分は母には幼少時代にほとんど育てられていないようなものですが、おばあちゃんがいてくれたおかげで、「取り返しのつかないダメージ」というのを負っていないのだと思いました。

おばあちゃんに育てられた、と言いましたが、実際、母に育てられるよりもそのほうが良かったのかもしれません。母とおばあちゃんは全然似ていません。母はどちらかというとゆっくりとした性格ですが、おばあちゃんはテキパキとした性格です。また、母はそれほど手が器用というわけではありませんが、おばあちゃんはとても手が器用で自分が子どもの頃に折り紙や貼り絵や切り絵などたくさん教えてくれました。インタビュー相手を安易に母と決めてしまいましたが、今思えば、おばあちゃんにインタビューすれば良かったのだと思ったりもしています。

では、おばあちゃんが自分をどう育ててきたのか？ということですが、今のおばあちゃんの自分に対する対応などから推測すると、かなり甘やかして育てていたのではないかと思います。

今住んでいる家は、おばあちゃんの家と直線距離で 300 m くらいしか離れていません。なので、夕飯のおかずを毎日ではありませんが、しょっちゅう届けてくれます。

けっきょく母とは、子育ての話よりも卒業した後どうするか？という話になりました。今現在、地元から秋田市まで電車で通っているので「秋田市内に就職したら、自宅から通ったほうが良い。」というようなことを母は言っていました。おそらく自分は県外就職などし

ない限り、卒業後も家から職場に通うことになるのだろうと思いました。しかし、そうなるとだいぶ親に依存しすぎているな、と思います。今は朝食の準備等母にやってもらっていますが、来年あたりからは自分もやるようにしていきたいと思います。自分が朝早い電車に乗らなければいけないばっかりに、母を必要以上に早く起こしてしまっています。自分でできることは自分でやるようにしていこう、という話でまとまりました。

6. 最後に

けっきょく自分が母を魅力的な存在と思う理由は、自分にとって母が、将来こういう親になりたいというモデルだからだと思います。最近世間では家庭内での問題が騒がれていますが、母の育て方が良かったのか何事もなくとても平和に？暮らせています。将来自分が人の親になったときのために、母からは子育てや「親」というものについてたくさん学んでいけたらと思います。

7.「日本事情Ⅱ」を振り返って

昨年の４月、友人が「日本事情Ⅰという授業をとろう」と自分に誘ってきました。あいにく自分は別の授業が入っていたため、断ってしまったのですが、その後友人からその「日本事情」という講義の内容をしばしば聞くことがありました。話を聞いているうちにその講義内容に興味が出てきました。というのも、自分は留学経験や海外へ行った経験がなく、違う国の文化に触れる機会がほとんど無かったため、留学生がたくさんいる、というのがとても興味深かったのです。そして、後期が始まり「日本事情Ⅱ」に履修登録することにしました。

自分が想像していたよりも留学生がたくさんいて、最初はやっていけるのか不安になりました。しかし、一緒のグループになったユミとボムソクはとても日本語が上手で、そんな不安などすぐに無くなりました。二人にはとても感謝したいです。

授業全体を通して、「文化とは何か」考えることができたと思います。また、段階を踏んで「自分にとっての魅力的な存在」を見つけることができました。この講義を受けて良かったと思います。

魅力がある教師とは

G7　　勝亦大樹

目次

1　どうしてK先生にインタビューしようと思ったのか？

1－1　学校の先生に注目してしまう自分

1－2　K先生との出会い

1－3　部活動でのK先生

2　インタビューにて

3　インタビューを通して考えたこと

4　このクラスについて

1　どうしてK先生にインタビューしようと思ったのか？

1－1　学校の先生に注目してしまう自分

私は、今年で秋田に来て2年目になりました。秋田での生活が始まってからこれまでに様々な経験をしてきました。誰一人知り合いのいない秋田という土地で一人暮らしを始め、今までは母親がやっていた食事作りや洗濯なども自分でやらなければならなくなりました。そんな感じで始まった秋田での生活は今ではだいぶ慣れて、学科内、学科外の友人もでき、

部活動では頼りになるチームメイトにも出会うことができました。そして、部活動を通して顧問の先生とも親しくなり始めました。

私は、中学校の教師になりたくて大学に進学することを決めました。教師を目指そうと思ったのは中学2年生の時だったと思います。決意してからというものは学校の先生を観察したり、自分だったらこういう風に教えるのにな、と考えたりするようになりました。こういったことを何年も積み重ねてきたせいか、大学に入学してからも先生の行動を見ていました。

１－２　K先生との出会い

大学で初めて出会った先生というのが、私が所属している部活動の顧問の先生であるK先生でした。最初の印象は、優しそうな人だと思いました。初対面の時は、特に話もしなかったのでこれ以上のことは思いませんでした。K先生の身長はあまり高いわけではなく、体型もいたって普通の一般的な感じです。先輩たちもK先生のことをすごく慕っていて、先生が部活動の様子を見に来ればみんなであいさつをしていました。先輩たちが先生を慕っているのがわかったのは、誰でも気軽に先生と話していて、また先生も笑顔で先輩たちと話をしていたからです。自分がK先生と直接話をしたことはなかったのですが、そういった様子を見ていただけでも先生の人柄の良さというのが伝わってきていた気がします。

１－３　部活動でのK先生

先生と私が初めて話したのは、テニスの大会の打ち上げ飲み会の時だったと思います。まずは自己紹介をし、お酒を先生に注ぎます。(20歳になっていたので法律違反はしていません）先生には、そのときに「これからも部活を頑張って強くなるように。期待しているよ」といった励ましのお言葉を頂きました。初めて話すということで礼儀だけはしっかりしようと心掛けていたせいか多少緊張していたのですが、先生と話していくうちに緊張も解けていました。そのときに先輩たちが先生を慕っているのは、こんなにも話しやすいからなのかなと思いました。

それからは、先生が部活動の様子を見に来た時はあいさつもこれまで以上にしっかりするようになっていました。先生と話す機会は徐々に増えていきましたが、そのほとんどが飲み会の時です。先生は、いつも笑顔でお酒を飲み、みんなと一緒に笑ったりして楽しんでいるようでした。

私の所属している部活動には秋にOB会や校内戦などの部活内のイベントがあります。

そういったイベントには先生はプレイヤーとして出場します。先生がテニスをしているところを見たのは去年の秋がはじめてでした。普段と変わらずにテニスをやっていると思っていたら、真剣な表情でプレーしていました。エースをとれば喜んだり、ミスをすれば笑いながらも悔しがっていたりと私たち部員と変わらないくらいテニスを楽しんでいました。そういったところもみんなに好かれる理由なのかもと思いました。

もちろん先生がいつもいつも笑っているわけではありません。飲み会でも私たちにアドバイスをするときは真剣な表情で伝えてきますし、これからの部活や人生について語る時もすごく真剣な表情で訴えてきます。そのギャップも人をひきつけている理由なのかなとも思います。

これまでに書いてきたことはあくまでも私からの見解ですが、周りの人たちも私に近いことを感じていると思います。だからこそ、先生のことをもっと知り、先生の魅力あるところを真似するためにもこの授業でのインタビューを通して得ていきたいなと思います。そして、得たことを将来の自分に活かせたら良いなと思います。

2　インタビューにて

インタビューをさせていただいた時間は、約一時間です。この一時間という短い時間の中で聞きたいと思っていたことを聞いてきました。

Q1　これまでの経歴を教えてください。

先生：秋田県南秋田郡出身で、秋田高校　→　秋田大学　→　大学の教員という感じで進んできた。子ども時代は、近所の外で遊び、たとえば、川遊びや鬼ごっこ、しじみを採ったり、家の手伝いをしたりしていた。
高校時代は高校２年生から陸上を始め、大学２年生まで続けていた。
大学時代は、それなりに遊んでいて、研究室旅行でスキーをしに行ったりしていていたね。ほかにもパチンコやボーリングをしに行っていたね。

先生も先生になる前は、普通の学生生活を送っていたんだなと思いました。遊ぶ時は遊んで勉強するときは勉強するという感じだったのかなという印象を受けました。他にも様々な事を話していただきました。

Q2　なぜ教員になったのか理由を教えてください。

先生：大学を卒業する前から教員になりたいと思っていた。教員というものにあこがれていたんだと思う。教員になりたいと思ったきっかけは、小学校四、五、六年生の時の担任の先生との出会いだな。とても人柄がよい人で尊敬していたよ。

この質問の答えを聞いた時に自分との共通点を見つけた気がしました。
私が教員になりたいと思ったのは、中学２年生の時でした。顧問の先生の魅力にひかれ、教員になりたいと思い始めたからです。

Q3　自分のこれまでの進路（人生）を後悔していますか？

先生：後悔していないよ。自分が教員になりたいと思ってなったわけだからね。ただ、この仕事を辞めたいと思ったことはある。愚痴みたいなもんだけどね。あとは、何もしないで後悔するより、チャレンジしてから考えるほうがいいと思うよ。やっぱり、やる前から諦めたり何もしなかったりだと後悔の念が強くなるからね。それに、実際にやってみないと結果なんてわからないんだからさ。

とても良い言葉を聞くことができたなと思いました。”やってみなければわからない”という言葉が胸に突き刺さった気がしました。とにかく、チャレンジ精神で様々な事に取り組んでいくことが成長するための近道なのかもと思いました。

このインタビューを通して普段なかなか話す機会がないＫ先生とこういったことを話せたことは、とても貴重だったと思います。たった１時間でしたが、今回のインタビューで先生のお話から参考にするべきことがあったので無駄にしないようにしようと思いました。また、部活のことについても励ましのお言葉をいただいたのでさらにテニスのほうも精進していこうと思いました。

３　インタビューを通して考えたこと

今回の貴重な機会でなぜ自分がＫ先生にインタビューしたいと思ったのか、Ｋ先生の魅力というものが、改めて分かった気がします。

私の理想とする教師像は、授業が分かりやすく、毎日笑顔を絶やすことのない、生徒から信頼される先生です。とても、アバウトで申し訳ないのですがこれが今目指しているものです。特に、生徒から信頼されることには重点を置きたいと考えています。

なぜ、そこに重点を置くのか？

それは、人間関係を築く上でとても重要であると考えているからです。また、授業のわかりやすい先生はたくさんいても信頼される先生というのは、ごくわずかな存在だと思うからです。生徒にとって必要な存在になりたいのです。

K先生は、インタビュー中に生徒との関わりの中で意識していることがあるといっていました。それは、生徒との壁（距離）をなくすことだそうです。私は教師になる上で生徒との距離を近づけることはとても重要なことだと考えています。距離が近ければ生徒とよりよい関係が築けるし、生徒の変化にいち早く気づくことができるからだと思うからです。

だから、K先生に対してはみんなが気軽に話をすることができたり、一緒に笑ったりできるのではないかと思いました。そういったところを見ていて、私はK先生に魅力を感じたのだとわかりました。

このことがわかったので、これから人間関係を築いていく中で相手との距離をなるべくなくせるように意識していけば、将来自分が教師になった時にきっと役立つだろうと思いました。

4　このクラスについて

私は、最初この授業を取るつもりはありませんでした。友人に一緒に受けないかという誘いがあり、受けることにしました。

目的主題別科目ということで、周りは一年生ばかりでとても居心地が悪かったです。（本音ですいません）しかし授業が始まってみると、だんだんこの授業を受けるのが楽しみになっていきました。

特に留学生と同じグループになってからは楽しくて仕方がありませんでした。楽しいだけではなくなくて、韓国の文化や考え方に触れることができたし、日本語を教えることの難しさに気づくことができました。毎回の授業を通して、ユミとボンソクの二人と仲良くなれたことは本当に嬉しいことだと思っています。

確かに最初は受ける気がなかったけれど、今では本当にこの授業をとって良かったと思っています。

魅力の無さが魅力

G7　高橋竜一

目次

1　どうして石井にインタビューしたいのか？
2　インタビューで話したこと
3　インタビューの結果分かったこと
4　日本事情を振り返って

1　どうして石井にインタビューしたいのか

私は同じ学課の友達の石井君にインタビューしたいと考えています。彼を選んだ動機や彼とのエピソードなどをグループのみんなのアドバイスを踏まえてまとめました。

石井と初めて会ったのは、1年生の時行われた「笑っていいとも」というイベントです。たまたま同じグループになった私たちは自己紹介を済ませた後、特に話すこともなくそのままイベントが終了するまで会話することはありませんでした。その時の石井への印象は、特に何もありません。彼とは4年間仲良くなることはないだろうと思っていました。実際、その後1年間はたまに話すだけの微妙な間柄でした。今となっては頻繁に遊んだりしますが、いつからそうなったのかはっきり覚えていません。

石井はとにかく特徴だらけの見た目をしていますが、一番目につくのは異常な筋肉質の体です。身長 169 ㎝、体重 75kg でベンチプレス 110kg とパワーだけはずば抜けていて、高校から大学の途中まで柔道部に所属していました。そのため耳がぐちゃぐちゃで、見た目だけは本気の格闘家です。地元の高校では一番強かったらしいのですが、柔道の強い秋大に来て惨敗したみたいです。しかし、高校時代に何となく出場してみた相撲大会で関東ベスト8になり、この肩書をいまだに自慢しています。

彼は非常によくしゃべり、とてもオープンな性格です。そのため交友関係は浅く広いタイプです。また、笑いに対してシビアであり、滑ることをおそれず自分を犠牲にしてでも常に周囲の笑いを求めています。周りからは「面白い人」というイメージを持たれていま

すが、よくしゃべる分ヒットが少ないので打率は低いと思います。そのため学課では相当ないじられキャラです。同じ学課にいることが不思議なくらい頭がよく、数学に関しては自分のレベルでは全く話がで通じないほどできます。なので、テスト前やレポートの締め切り前になると彼の周りにはたくさんの人が寄ってきて、終わるとみんな離れていきます。

石井のことを紹介しようとしても負の印象しか思いつきません。そんな彼と友達になった最大の理由は趣味が合うことだと思います。彼は柔道家で、私も空手部だったので共に武道家として通じるものがあります。先日、アルヴェで行われたプロレスの試合を一緒に見に行きましたが、やはり格闘技を経験した者同士意見が一致してとても楽しかったです。お互い古着が好きなので、よく一緒に店を回ったりもします。また、よくしゃべる石井とおとなしめの私の性格がうまくはまったのもあるとおもいます。

何回も言いますが、石井はうるさいくらい喋るし、人から好まれるルックスでもないのになぜみんなから慕われるのだろうかと疑問を抱くことがあります。集団の中の一人として考えると、一人一人役目みたいなものがあって、石井には石井のポジションがあると思います。そのポジションは私が今まで関わってきた集団にはなかったタイプだと思います。ということは、いなくてもいいようなものだけど私たちの中では彼はなくてはならない存在です。実際学課の中では、みんな石井を拒否しつつも慕っています。とても不思議な人です。これを書いている今も、なんであいつのことについてこんな長い文章書かなければならないのかと不満たらたらです。しかし、私自身気づかずに彼の魅力に触れているのだと思います。

これが私の知る限りの石井です。彼の魅力なんて知りたいとも思いませんが、インタビューを通して少しでも謎の真相を知れたらいいと思います。

2　インタビューで話したこと

自　分：なぜそんなに筋トレするのか。

石　井：中学生の頃「デブ」と呼ばれていて、それが嫌で高校生になってから筋トレを始めた。みるみるうちに胸筋がついていき周囲から誉められるようになり、最初はそれが快感で筋トレをしていたが、今では自分の価値観そのものになって、「筋トレのない人生は考えられない」というほど生活の一部となっている。人生を通して続けたいことである。

自　分：好きなお笑い芸人は？

石　井：さまぁ～ず

自　分：なぜそんなにお笑いにこだわるのか。
石　井：人を笑わせることは、男としての最大の魅力だと思うから。人と話していて楽しいと思われることが自分の一番の喜びであり、みんなのバラエティ的存在でありたいと思う。

自　分：いつから笑いに目覚めたのか。
石　井：もの心ついたときから。

自　分：自分から見たら石井はだれでも受け入れるような性格で、周囲からは面白い人という印象があると思うが、自分ではどう思われてると思うか。
石　井：支離滅裂。うるさい。

自　分：どう思われたいのか。
石　井：こいつ面白いやつと思われたい。お笑い的な要素だけでなく、真面目な話もできるような存在。相談されるのが好き。「ハート to ハート」な関係でありたい。

自　分：一見明るいキャラに見えるけど、大勢で騒いだりするのはあまり好きそうではなく、どちらかというと少人数でひっそりしているほうが好きそうに見えるが、どう？
石　井：実は根暗な部分も隠し持った人間だと思う。新しい環境に適応するのが苦手。

自　分：交友関係は広く浅いタイプだと思うが、特別仲の良い友達はどうゆうタイプが多いか。共通点とかあるか。
石　井：一緒にいて楽な人と、気が合う人の２パターンあると思う。

自　分：尊敬する人は？
石　井：おじいちゃん。幼いころ両親が忙しかったためおじいちゃんと過ごす時間が長った。その時にたくさん知識をつけてくれた。
プロレスラーの丸藤さん。プロレスを見に行った時に偶然出会い、筋トレのアドバイスをいただいた。

3　インタビューの結果分かったこと

インタビューした結果、改めて変わった人だと思いました。恥ずかしいようなことも平

気でしゃべれるところはさすがだなと思います。インタビューしていてもいちいち熱いので非常に疲れましたが、そこが彼の魅力でもあります。

また、意外な発見もありました。石井はいつも何も考えずただべらべらしゃべっているだけだと思っていましたが、人間関係についてまじめに考えているようで少し見る目が変わりました。人と関わるのが好きという面もあれば、ひとりでひっそりとしていたい根暗な面もあります。そんな二面性を持ちながらも周りといい人間関係を築けるのはやはり人柄の良さのおかげだと思います。人間環境課程ではかわいそうな立場にいますが、みんな彼を信頼してのことです。このインタビューを通して雀の涙ほどしかない石井の魅力について知ることができました。

インタビューで石井は「話していて楽しいと思われることが最大の喜び」と答えてくれましたが、私は人とのコミュニケーションをそのように捉えたことはありませんでした。石井は他人からの自分に対するイメージをとても気にするので、つまらない人だと思われないために必死にしゃべりますが、私は逆で悪いイメージを持たれるよりだったら何も喋らないほうがよいと考えてしまいます。また、「根暗な部分を持つ」「新しい環境に適応するのが苦手」という部分では自分と共通していると思います。石井も私も周囲の雰囲気に合わせて明るくふるまうこともありますが、少人数でひっそりとしている方が好きというのが本音です。石井は天然の元気系だと思っていたので意外でした。周りから見れば、石井と私は全く正反対の人間に見えると思います。実際、仲良くなる前は私もそう思っていました。しかし、彼の内面を知っていくうちに自分と似た部分がたくさん見えてきました。私にとって石井の魅力とは共有できるものもあれば、新しいことも学べる他にはいない存在であることだと思います。また、彼は普通だったら尊敬されるくらい頭がいいのに、ほかのマイナス面が多くて周りからは小馬鹿ににされています。しかし、そのマイナスポイントこそが彼を近づきやすい存在にしているのだと思います。この出来杉くんとのび太くんの両方の面を合わせ持つことが誰からでも愛される石井を作り上げているのだと思います。

4　このクラスについて

最初は単位稼ぎのつもりで受講したのに、6400 字のレポート、インタビューと聞いてやめようと思いました。しかしグループの友達ができ、途中から楽しく感じるようになりました。普通の講義なら休める分はきっちり休む自分が、日本事情だけは今のところ全部出席しています。グループのみんなのおかげだと思います。留学生との交流と聞いて緊張していましたが、二人とも日本語でたくさん話しかけてきてくれてすぐに仲良くなれました。みんなと楽しく過ごせたことがこの授業の一番の収穫です。

家族のような人
李サンジンさん

秋田大学　教育文化学部
グループ：G7
氏名：池　ボムソク

目次

１　どうしてサンジンさんにインタビューしたいか？
２　インタビューで話したこと
３　インタビューの結果わかったこと
４　「日本事情□」振り返って

１．どうしてサンジンさんにインタビューしたいか？

１－１　先輩として出会った李さん

　留学に来る前、サンジンさんと私は日本語学科の役員でした。
役員は４人か５人ぐらいいましたが、他の人よりサンジンさんと一緒に過ごす時間が多かったです。なぜなら、そのとき私は、学校の寮に住んでいたので遅くまで行事の準備ができたからです。
そして、多くの学科の行事は僕たちの考えから行われたことでした。
それをきっかけに、私とサンジンさんはだんだん親しくなってきました。
私は、もともと人と付き合うことが苦手ですから、一度したしくなった人を相当にたよる性格です。そして、その後から自分の悩みに相談をのったり、恋愛の問題についてもよく聞きたりしました。
　私にとって、あれだけ親しい先輩はいなかったです。
同じ学科の先輩たちは、後輩に対して厳しかったので、親しくなることは難しいと思って悩んでいたときもありました。
それで、私はサンジンさんを他の先輩たちとは違う、特別な人だと思いました。

１－２　一緒に住むことになった李さん

　しかし、いつもサンジンさんと仲良かったことはありませんでした。
サンジンさんのまじめな面が見たかったです。
会議があったとき、今までの行事について書いたメモをよく忘れたり、決断力が弱くてどれを決めるか迷ったりして、少しは彼を信頼できなかったときもありました。
そのごろ、留学の日程と、寮に合格、不合格の結果が出ました。結果には、１０人は寮、４人寮に入れないそうでした。その４人の中で私とサンジンさんが含みました。
日本には行きたかったです、２人とも。
ところが、二人暮しには、自信があまりなかったです。
まずは、自分のスペースを持ちたかったです。
また、二人で住んだらお互い合わないところも当然あるはずだとおもいました。もともと、個性が強い自分なので、他人と一緒に住むなんて、よくできるかと思いました。
しかし、今まで仲良かった人だったので「 先輩と仲良く過ごしてみよう」と考えました。

１－３　相手にした理由

今サンジンさんとは、とても親しくなりました。最初は無論、合わない部分があるはずだったですが、少しずつ慣れた今は、一人じゃなくて二人で住むことになってとてもよかったと思います。

先輩はとてもおもしろく、愉快な人です。
前の部分で言ったように、先輩は、先輩と後輩の関係に対して他の先輩たちとは違う、やさしいです。
自分が好きな人のタイプや食べ物、または性格が相当に似ていて、一緒にいると対話がよくできます
それでサンジンさんと一緒にいたら、心の中から話したい言葉がよくでます。
その日に会った人たちの話やお互いの今の悩みについて。
これが、このインタビューの相手にサンジンさんをすることに決めた理由です。
「サンジンさんにどのような魅力があるのか」「どうして、彼と一緒にいると自分が、自分らしくできるか」それが相手にした理由です。

２．　インタビューで話したこと

サンジンさんとのインタビュー
１２月１６日　午後３時ごろ。
サンジンさんと学生食堂でインタビューをやりました。

質問１　サンジンさん、兄弟はいますか

先輩：４才上の兄がいる。俺と性格が大違いから彼は勉強しか知らない。それで今は大学院で博士の課程で大学の教授を目指して勉強している。俺は勉強が苦手だったから正反対タイプだろうな。

少し意外でした。サンジンさんは何か行事があるとき、自分が率先して仕事をするタイプの男性ですから、私は彼には明らかに年下の兄弟がいるはずだと思ってましたからです。

質問２　趣味ゲームでしょう。操作が難しいビデオゲームをそれほど上手になるなんて珍しいです。

先輩：小学５年生のとき、同じ町に住むあの兄と偶然にゲームセンタを行ったのがはじめて、そこで「鉄拳」（日本でも有名なビデオゲーム）のおもしろさにはまっちゃった。それがきっかけでいままでずっとやってきた。

先輩はゲームセンタで使ったお金をちゃんとためたら車を買うほどだと言われ「やはり、そんなに難しいゲームの操作を自由にできることなんて、それほど自分の努力があるはずだ」と思いました。でも、あまりうらやましくなかったですね。

質問３　先輩、私が先輩に留学について聞いたときは、先輩はまだ迷っていました。
留学を決めた、何か動機がありましたか。

先輩：最初は、留学に関心がなかった。家庭の都合もあったし親も早く卒業して俺が就職する

ことを願ったから。でも、留学に行ってきた先輩たちの助言を聞いて、秋田に行きたいと思った。留学の体験は日本語の能力はもちろん、あとで就職するときにも自分の大きなメリットになるから絶対行ったほうがいいとみんなに言われた。それで親を説得して就学を決めた。

質問４　最初はどうでした、ここに着いたとき。私たちはアパートを探して早く引越ししなきゃいけない状況でした。

先輩：（不愉快な顔で）辛かった、そのときは。ほかの人たちは自分の部屋があるから着いてすぐ荷物の片付けができたが、俺たちはそれができなかったから。本当に寂しかったし、心配だったよ。

私　：　どういうふうに考えると、そのせいでアパートの４人がもっと親しくなったかもしれません。いまアパートのメンバー４人を韓国の有名なバラエティー番組「ファミリー」を真似して「ファミリー」と呼んでいますが、どうですか。私たち、ファミリーについて

先輩：　言葉通り「家族」だと思う。見かけだけでファミリーじゃなく自分が本当に辛いことがあり苦しいことがあるとき、一番おもいだすメンバー。
留学の生活で一番大切になったと思う。

質問５　私と一緒に住むことになったとき、どうだったんですか？

先輩：さあ。最初は、むしろよかったと思った。他の人より私と一番したしいと思ったから。
それより、住む場所さえ今決まったことがないと言われたので、そのときはそれが最も大きい心配だった。

本当にそうでした。私たちを含め４人は、日本に行ってから自分たちで（もちろん学校の援助もありましたが）なんとか住む場所を探さなければならない状態だったので本当に心配でした。

質問６　最初と今、どうですか。最初にもったイメージと違いがありますか

先輩：お互いの好みが意外によく合うと思った。好きな音楽とか好きな人間のタイプ、また話し方も少し似ている。
話がお前とよく通じると感じていることもよかったと思う。最初のイメージは、冷静な人や敏感人だと思ってどのくらい親しくなれるか心配もあったけど今はそんな心配はしない。かなり親しくなった感じがする、お前もそうだろう

私はここでほっとしました。「先輩も私のことをほかの人よりは楽に思ってくれるんだ」と思ってから。
実際に、サンジンさんと私の好みはとても似ていたと思いました
音楽はもちろん、自分とよく合う人のタイプまで。それで、サンジンさんとはいつもたくさんの対話ができます。あまり意見の衝突もないし、一緒にいるととても楽な気がします。

先輩：またお前の料理にもとてもびっくり。お前、今まで料理は全然しなかったと言っただろう。それで「俺も料理にはあまり自信がなくてどうすればいいかな」と悩んだときもあったよ。でも、お前が初めにつくった料理を食べたあとには本当にほっとしたよ。とてもおいしかったから。料理のセンスがあると思って俺はこれから洗い物を担当すればいいだろうとかってに決まったけど、良いだろう。たまには俺も料理を作るから。

私は「料理より家事こそ手伝ってください」と愚痴をこぼしました。

質問７　この間、私のせいで混乱したことは？

先輩：最近、Aとお前、けんかがあったじゃん。そのときだった。
俺の立場は、Aの味方も、お前の味方のない、先輩として仲裁するわけ。そんな風にお前が怒ったらみんなが混乱な状態になる。あとは注意してくれ。

先輩の指摘は厳しかった。とてもまじめな顔をして、私をせめることを感じました。
しかし、先輩のおかげで十分反省もできました。

質問８　日本にいる間の目標は何ですか

先輩：おれ、帰ったらもうすぐ卒業だろう。そしていま日本にいる間、なるべくたくさんの思い出を作りたい。バイトもやりながら友たちも付き合ってもらいたいし自分でかせいだお金で旅行もしたい。韓国に戻るとまた忙しい日常や就職のプレッシャーがあるので今の毎日を楽しんでいきたい。

私：戻ったら何がやりたいですか？

先輩：自分のお店をもって経営したい。
韓国の食べ物、たとえば韓国風の焼肉屋を日本で運営して、韓国の料理を日本へもっと知らせたいことが俺の夢だ。
それを目指して、まずは日本語を自由にしゃべることができるように、日本語を勉強することが何この1年の間、目標だ。

先輩は私の目標についても聞いてみました。私は留学の目標が三つあると答えしました。
一つ目は一番大事な目標、日本語の勉強です。日本語は自分の専攻の科目であるし社会に出て就職するためにも何より一番大切な自分の能力になるので一生懸命勉強すべきです。
二つ目は楽器を一つぐらいきちんと習うことです。
楽器が一つぐらいできて楽しめることは、人生の大きなメリットだし生活で溜まったストレスをとける一つの良い方法だと思うので習いたいです。
三つ目は筋肉のトレーニングです。
韓国に戻って卒業するとすぐ軍隊に入る身分なので、軍人として一番大事な条件の体力をため、大事なことです。
二つ目は韓国に戻っても習えることではないかと先輩に聞かれたが、日本で習ったその経験は自分にとてもおもしろい、特別な思い出になれると思うのでここで習いたいと答えました。

後で将来については、まだはっきり決めたことがない、ただ後で就職してもずっと日本語を使えて働いていきたいと言いました。
そして、今まで私たちが続けて勉強したことも、何より自信があり科目も「日本語です」と言えるはずだから、この留学する期間を無駄にならないように勉強したいと言いました。

３．インタビューの結果わかったこと

私はインタビューを通じてわかった結果より、一緒に暮らしながらわかったことについて書こうと思います。

サンジンさんはここにいる間だれよりアパートに住んでいる４人を一番大事にしていると言いました。私たちのことに関しては、いくら細かい問題にも心配してくれるので、まるで父親だと思われているかもしれません。

私も嬉しいことがあるときや問題があるとき、サンジンさんとたくさんの話をするので今は本当に親しくなったと感じています。
一緒に暮らしながら感じたサンジンさんの長所は、いつも一緒に考えて何かをしようとするところです。何かがあったとき「お前がしろ」ではなくて「どうすればいいと思う、お前は。」と言いながら、私と意見を合して決定しようとします。
自分は韓国にいる時、後輩たちにそのような言い方より、命令する言い方のほうが多かったではないか反省した時もありました。

これを全部まとめてもう一度かんがえてみました。どうして先輩と一緒にいると自分が自分らしくできるか。

それは簡単に説明することは難しいですが、先輩を家族のように感じていることだと思います。家族というのは自分が一番らくに対する人や一番じぶんを理解してくれる人だと思いますので先輩とたくさんの話ができることだと感じます。

４．「日本事情□」振り返って

日本にきてもう３か月半ぐらいがたちました。その中で、たくさんの日本の人と話すことができる授業が、この日本事情だったと思います。
多文化コミュニケーションをテーマにして日本の人たちと文化を紹介してその文化の違いに話し合う授業だったので韓国の文化をみんなに分かりやすく説明することが難しかったです。
また、自分がインタビューしたい人をひとり選んでその人のどんな魅力があるか、ほかの人ではなく、なぜその人を選んだのかを考えてみるテーマメモというレポートはとても興味深いことでした。
あの人について「その人が私にどんな人だろう」ということを意味深く考えたことがなかったですから。
それで、同じグループのみんなの発表を聞いていながら、「自分の誰かにインタビューの相手として、魅力的な人になりたい」と思ったときもありました。

そして、まだ日本語の能力が下手なので、同じグループの人たちともう少したくさんのテーマで話し合えなかったことやもっと積極的ではなかったことが惜しかったです。

しかし、それにもかかわらず、私とユミにやさしく対してくれた皆さんに本当に感謝したい気持ちです。